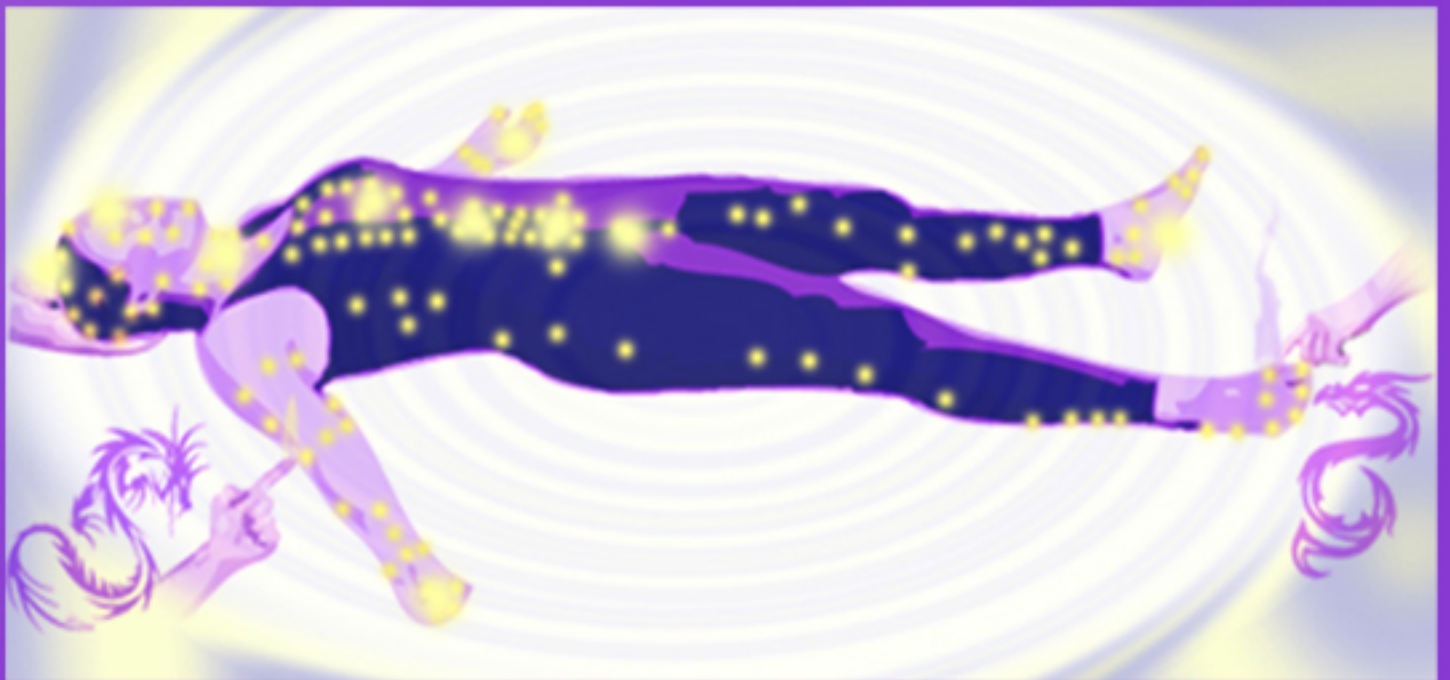


ULTIMATE HEALING A HANDBOOK



Peter Aziz

アルティメットヒーリング ハンドブック

ピーター・アジズ著

このハンドブックは、シャーマンのピーター・アジズが指導する[アルティメットヒーリング・コース](#)および[ボディアレクトロニクス・アドバンスド・ポイントホールディング・コース](#)のための補足資料です。詳しくは、www.azizshamanism.comをご覧ください。

アルティメットヒーリングは、30年間に及ぶシャーマニズム経験と内分泌学ならびに量子物理学に関する科学研究によって編み出されました。このヒーリング法によって、保存されているトラウマや制約や行動パターンの解消、意識の変容、気づきとパーソナルパワーの拡張、身体の再生、生命エネルギーの修復が可能となります。これがどのように機能するのかを説明するためには、創世神話から始める必要があります。

はじめに、女神が一粒の愛の泡を膨らませました。それは女神にとってはかなり小さな、直径わずか3千億光年の泡でした。女神はこの泡に生命を吹き込み、泡の中に入射した女神の光が泡の表面で反射を起こすと、光によって生じた干渉縞がユニヴァースを生み出しました。

近年、科学者は球体ホログラムを考案しました。二次元ホログラムの平面上で光ビームを反射させると三次元の像が現れますが、球体ホログラムを用いて小さな穴から光ビームを内部へ照射したとすると、内部には多重反射によって複雑な三次元の世界が生成されるはずで、ユニヴァースとは、光の干渉縞からすべてが生じる三次元ホログラムのようなものなのです。

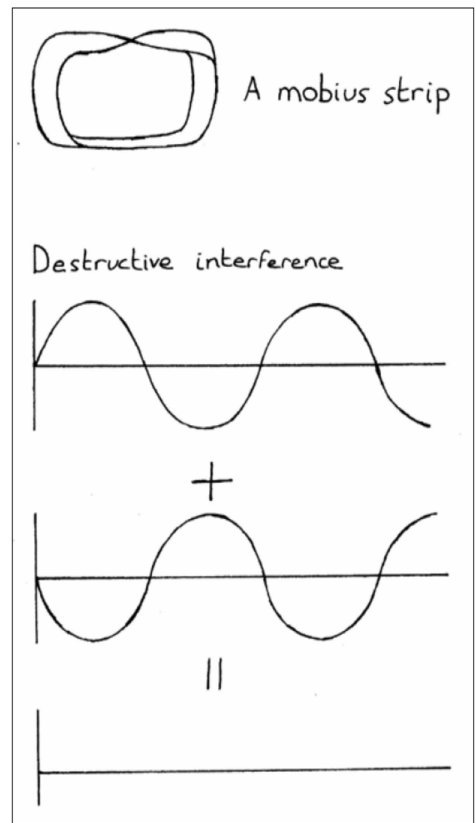
世界がじつのところ固体でないのは科学界ではずっと前から知られた事実です。世界は原子から構成されています。そして、原子の間にはかなりの空間があり、ある物質がほかの物質を通り抜けるのを阻止しているのは運動している電子のエネルギーフィールドだけです。科学はさらに、原子もじつは固体でないことを発見しました。原子は小さな原子核を内包し、原子核を取り巻くオービタル（軌道）には電子が動き回っています。固体物質の実際の総計は非常に微量であり、もしも地球がニュートロニウムに濃縮されたとする

と、すなわちすべての電子がそれぞれの原子の原子核の中にたたみ込まれたとすると、地球のサイズは直径およそ1 cmになるはずで

す。まもなくして、原子核も固体でないことが発見されました。原子核は陽子と中性子から構成されており、その間にはかなりの空間があります。これらの粒子はクォークに分割され、クォークの間にも空間があります。クォークはさらにニュートリノに分割することができます。しかも、クォークだけがニュートリノでできているのではなく、クォークの間の空間もまた、異なる振動数で振動するニュートリノでできていることが発見されました。つまり、物体があるか無いかの違いは、ニュートリノの振動数の違いでしかないのです。

なぜニュートリノはある瞬間にはあるものとして存在し、次の瞬間には違うものとして存在するのかを研究した科学者たちが発見したのは、ニュートリノはいつも予想されたかたちになるということです。いうなれば、神秘主義者たちの説が裏付けられたわけです。つまり、物質とは、意識によってつくられる幻想だということです。波動と粒子の二重性は、粒子は観察されるまで波動であることを明らかにしています。観察によって波動が粒子になります。全ユニヴァースは波動パターン以外の何ものでもなく、意識することによって現実のものとなるのです。そして、私たちの身体はもっとも個人的な物理的創造物であり、思考、感覚、信念、態度、選択、決断を反映しています。

以上の事柄をヒーリングに応用する方法を理解するために、思考パターンが体内でどのように結晶化されるのかに目を向ける必要があります。あらゆる知覚体験、思考、そして感情は、電気の波を生じさせ、この波は身体中のDNA分子を通り抜けていきます。DNAの二重螺旋構造は向かい合う2本の鎖が逆方向に渦を巻いているため、DNA内を通過する波はすべて、同時に、両方向に進みます。その結果、方向を持たない情報波、スカラー波が発生します。この波は意識的に体験することによって脳内の脳梁内部を移動していきます。そして、脳梁はメビウスの帯のようにねじれた環状構造をしているため、そこを通過する波は位相が180度変化し、それによりDNAコイルに蓄積されている波は相殺的干渉によって打ち消されることとなります。



完全に意識されなかった思考や感覚、あるいは知覚体験は、DNAコイルの中に波動としてとどまります。この電氣的波動はメラニタンパク質複合体を引きつけて、結晶を形

成します。そのようにして、抑圧した体験や思考や感情は、体内のDNA分子に結晶として保存されていくのです。身体はさながら三次元ホログラムのようであり、DNA内の各部分は身体の異なる部分に影響します。さまざまな感情はそれぞれ異なる臓器に保存され、そのせいで結晶化が生じた臓器は正常に機能できなくなります。DNAの7つのコイルは7つの内分泌腺と共振し、7つの内分泌腺は7つの異なる感情を保存し、これら7つの感情は一定のステージに沿って抑圧されることになるのです。

無条件の愛とエンシュージアズム（好奇心や喜びや熱意をもって物事に取り組もうとする心持ち）のある人生を体験しているとき、生命力は完全に私たちと共にあり、いかなる抑圧もありません。じつに、エンシュージアズムとは、あなたの内に神が存在しているという意味があります。エンシュージアズムは松果体と共振しますが、これが欠如しているときは松果体の石灰化を招きます。無条件の愛を欠いた状態で人生を体験するとき、私たちは対象に対して善悪の価値判断を下し、それらに抵抗し、それゆえ痛みを感じるようになります。痛みとはつまり分離している状態です。そして分離というのは、対象がどのように在るべきかという見解と現実が一致しないときに起こります。痛みは下垂体に保存されます。痛みをこらえると怒りが生じ、怒りは甲状腺に保存されます。怒りを我慢すると逆境が続くことを恐れるようになり、恐れは胸腺に保存されます。恐れを抑圧すると被害者となり、世界に背かれているように感じ、深い悲しみを覚えます。悲しみは副腎、睪臓、そしてソーラー・プレクサスに保存されます。悲しみを抑え込むと、挫折し、絶望し、感情が鈍麻します。アパシー（感情鈍麻または無関心）は脾臓に保存されます。絶望感は一歩一歩死の願望を生み出します。末期疾患の患者は死の願望が脾臓に保存されているはずです。最終的には心を完全に麻痺させて、すべての感情を抑圧し、無意識に埋没します。感情麻痺は性腺（精巣または卵巣）に保存されます。薬物、麻酔、催眠術などの無意識的な体験もすべて性腺に保存されています。これらの抑圧された感情は身体を損傷させる傾向があり、あらゆる身体的問題および病気は特定の感情パターンに関連しているのです。

ヒーリングは愛がなければ始まりません。無条件の愛のエネルギーは、高いヴァイブレーションに共鳴する性質があるため、低いヴァイブレーションを高めて体外に排出する働きがあります。この排出の過程において、ヴァイブレーションは脳梁を通過し、意識的に体験されます。ポイントホールディングの被術者（患者）は、感情の各ステージを上っていきます。そして、エンシュージアズムを伴って、抵抗することなく、それぞれの感情を体験するよう励まされます。まずは麻痺感から始めますが、そのときは麻痺感を徹底的に感じ取らなければなりません。それから次のステージである絶望感とアパシーに進みます。そうして、悲しみ、恐れ、怒り、痛みの順に感情のステージを上りながら過去のトラウマ

を追体験し、やがて無条件の愛とエンシュージアズムの状態に立ち返るのです。このプロセスが起こっているときは、クンダリニーが上昇することによって燃えるような熱い感覚が体験されます。燃えるような熱さとともに、身体の再生が起こるのです。それがどれくらい続くのかは身体的損傷がどれほど癒されるのかによって異なり、数時間に及ぶこともあります。必要な時間を費やすことによって、腫瘍が消え、麻痺した部分の神経回路が回復し、炎症を起こしている関節の石灰化が溶け去り、萎縮した臓器が再生されていきます。

記憶を解放しているときは、遺伝的な記憶、すなわち両親、祖父母、または先祖に起こった事柄の記憶を追体験することもあります。抑圧された記憶はDNA内に保存されるため、世代から世代へと引き継がれることがあるからです。遺伝子の記憶の解放によって、遺伝性の病気が癒えることもあります。また、過去の記憶に加えて、DNAは未来についても多くの情報を保存しています。科学者はあなたのDNAを調べることによって未来の容姿を予想することはできても、過去については何も言うことができません。DNAとは、じつに未来のブループリントなのです。

量子物理学によると、あらゆる体験は現在と未来の間を両方向に伝わる量子波であるといえます。この波は両方向に作用するため、私たちが未来を創造すると同時に、起こりうる未来が私たちを創造しています。起こりうる未来はすべて、注意を引くために競い合い、出現しようとしています。そして、実際に出現しない未来も含めて、私たちに影響を及ぼします。未来の影響力によって現在の私たちが実現しており、それは過去の影響力よりも大きな力なのです。アルティメットヒーリングのプログラム経過中は、過去からの記憶だけではなく、未来からの思考や感情とも向き合います。

身体はホログラムのような構造をしているため、病気の臓器を外科的手術によって摘出したところで、病気の原因は依然として全身のDNA中に温存されています。身体に表れる症状だけに対処しても、取り残された原因は身体の別の部分で出現することになります。永続的な癒しをもたらすためには、意識を変化させなければならないのです。

ヒーリングの第一歩は、無条件の愛のパワーを流せるようになることです。これはトランスミッションによって可能となります。あるいは、バイオレット色（青みを帯びた紫色）の炎を視覚化することによっても身につけられます。また、愛の法則を心得ておくことも必要です。愛し方を知るためには、愛が与える7つの事柄を理解しておかなければなりません。その7つとは、心理的安全、喜び、価値、相手が自分を知っているという感覚、祝福、個性、そして存在の拡張です。これらを与えているとき、あなたは愛を与えています。これらを与えていなければ、じつは愛していません。ニュー・エイジ指向の人たちはときに、「愛」という言葉を許しがたい行動の言い訳として使うことがあります。あなたの自尊

心をたたきつぶすような非難をごろごろと浴びせたあとで、「だけど、愛してる」とさえ言えば、すべてが丸く収まるかのようです。けれどもそれで万事オーケーではないのです。なぜなら、彼らは愛していないからです。

ヒーリングの伝導を理解するために、私たちは誰も孤立していないということに気づきましょう。過去にこのワークをしたすべての人たちは軌跡を残してくれています。それは力の集合体であり、エグレゴレ（類魂または思念形態）と呼ばれます。このヒーリングの背後にあるエグレゴレは大昔に遡ります。人間に似た生命体はシリウスで始まり、光の生命体として進化しました。彼らは人類の進化を助けるために地球に降り立ち、原始の魔術的な社会であるレムリアをつくりました。やがてレムリアは消滅し、人類は独自に魔術を探求することになりました。そうしてアトランティスが誕生しました。

シリウス出身の輝く者たちは、人類に比べてはるかに魔術的な発展を遂げていた妖精界と魔術を分かち合いました。これらの秘密の知識は、アトランティスが崩壊したあとも、古代エジプトで存続しました。古代エジプトが滅ぼされたのち、ある一族はハワイ諸島に赴き、カフナの家系になりました。ベルベル人となった一族もありました。ドラゴン族はハンガリーへ渡り、ロイヤル・コート・オブ・ドラゴンズを形成し、ペンドラゴン家が生まれました。魔術師マーリンの系統は妖精界に師事しつづけました。このヒーリングの系譜は、カフナの教えと私が血筋を受け継いだハンガリーの系統に由来していますが、今でも妖精から学んでいる内容も反映されています。そして、この系譜のエグレゴレはヒーリングの伝導が起こったところに基づき、これにより私たちは創造主から放たれる無条件の愛のパワーに同調するのです。

バイオレット色に輝く炎は私たちのヒーリングを象徴します。そして、このヒーリングの特質はあなたの進歩につれて深まっていきます。なぜなら、このヒーリングの特質とは、あなたが創造主およびエグレゴレと共に行うコ・クリエーション（共創）の産物だからです。これはアトランティスでも行われていましたが、コ・クリエーションは各個が生み出す合計よりも多くを生み出すため、過去のいかなる時代よりも深遠な癒しが起こりうるのです。癒しが深まるのに伴って、さらなるトランスミッションが与えられます。

癒しのプロセスを理解するためには、ノンジャッジメント（善悪の価値判断を下さないこと）および非自己同一化（自分と感情を同一視しないこと）を学ぶ必要があります。私たちは感情を不適切なものとみなして抑圧しますが、あらゆる感情には効用があり、湧きあがってくる感情が何であろうと、あなたにはそれを感じ取る権利があるのです。たとえば、怒りは毅然とした態度を引き出し、好ましくない状況を変化させるために行動する意欲を起こさせます。恐れは脅威を感知する機能に警告を発し、能力を最大限に発揮するよ

う促します。悲しみは打ち砕かれた期待の不要なエネルギーを解放します。痛みはあなたにとって何が有害であるのかを気づかせてくれます。

自分と感情を同一視する傾向が強いと、感情の解放が難しくなります。感情をありのまま受け入れ、自分は感情を感じているのであって、自分は感情ではないということに気づきましょう。そうすることによって感情を歓迎し、手放すことができるのです。

癒しの段階（基本コース）

基本コースは第一に無意識を癒すことから始めます。無意識は性腺に保存されています。無意識が癒されると、性的能力と性衝動が回復します。その過程において、麻酔、薬物、催眠術など、感情麻痺に関連するすべての問題が解放されます。無意識はオーラに穴を生じさせます。そして、自然は真空を嫌うため、何かはその穴を埋めることになり、いろいろな靈魂(spirit)、霊体(entity)、思念体(thoughtform)が侵入しようとし、それらの憑依体は、無意識を解放している最中に、ひやっとした冷たい風として体外に出ていくのが感じられるかもしれません。麻酔をかける外科手術を受けたあとは、それまでは無かった考えが浮かぶようになることがあります。麻酔をかけられなくても、3歳以下の幼児は自分のオーラを持っていないため、両親のオーラに守られていないときに霊体が入り込んでくる場合があります。特にこの年齢層は先祖の霊が入り込みやすいときでもあります。そのような霊は先祖の魂というよりも、彼らの感情体です。激しい感情はエーテル的な形態を生み出すため、未解決の感情を抱えたままこの世を去った先祖は、感情体となってあとの世に残り、同じ血筋を引く人たちの中で存続しようとし、そして幼児は先祖の感情的な問題を引き継ぐのです。幼少期は人格が形成される時期であり、先祖の感情的問題は根深く抱え込まれることとなります。それらの問題は腸に保存され、アレルギーの原因となります。アレルギーとは腸の衰弱によって異常な代謝産物の吸収を許してしまうことによって生じるからです。そのようなアレルギーは先祖の霊が去ることで治ります。

次に癒すのはアパシーです。アパシーは脾臓に保存されています。アパシーの癒しによって、社交性が富み、身体が活発になり、貧血および消化器疾患が治癒します。感情面においては、抑鬱状態、絶望感、無力感などが癒されるために浮き上がります。生きる意欲が失われたときの記憶がよみがえり、死の願望が起こることもあるでしょう。また、それらの感情を解放するのに加えて、パワーを取り返すことも必要です。誰でも他者にパワーを奪われるときがありますが、失ったパワーは瞑想で取り返すことができます。樺の木ま

たは櫓の木を用いて地面に時計回りで円を描き、円のふちにあなたのパワーを奪った人を呼び出してください。彼らはあなたのパワーを手にしています。それを取り返すのです。

生きる意欲を喪失する大きな要因のひとつに恥があります。恥は深刻な病気の背景となっていることもよくあります。恥の原因は3つあります。第1に、誰かに押しつけられた恥があります。恥とは単に心理的な問題ではなく、形而上的な問題でもあるため、心理学では適切に対応できません。恥は引き継がせることのできるエネルギーなのです。たとえば虐待というのは、自分で感じたくない恥を誰かに引き継がせるための手段として行われることが珍しくありません。このタイプの恥は、自分の中から絞り出して、押しつけた人に送り返さなければなりません。

第2に、幼少期のトラウマから見いだした意味と重要性に起因する恥があります。幼い子供は自己と他者の区別を自覚できていないため、自分の周りで起こることは何でも自分のせいだとみなしてしまいます。愛されていない子供は、自分は愛される価値がないと思い、恵まれない状況にある子供は、自分は恩恵に値しないと思ってしまうのです。このタイプの恥を癒すためには、恥が生じた状況を思い出し、それに対して新たな意味と重要性を見つけだすことが求められます。

第3の恥は、許していない過ちから生じます。過ちを犯したときに後悔するのは当然です。そうすることで良心が発達し、変化を起こせます。もし後悔を感じないとしたら、自分には何かが欠けていると感じるはずです。後悔はあなたが過ちを犯したことを認めさせます。ところが、恥はあなた自身を過ちにしてしまうのです。このような恥を癒すためには、許し方を知る必要があります。

まずはじめに、「何」を許すのかではなく、「なぜ」を許すことが鍵となります。過ちを犯した理由を知るというのは、過ちを黙認するという意味ではなくて、自分の弱さを認識することです。たとえば、性的虐待の多くの事例において、虐待行為は愛を表現する唯一の方法であったという主張がなされますが、それでは進歩は見込めません。虐待が愛情表現であるはずはないのです。しかし、もし虐待するしか悪意を表現する方法を知らなかった、もしくは誰かに押しつける以外に自分の恥をどのように扱えばよいのか分からなかった、というのであれば、癒しの可能性が生まれます。犯してしまった過ちをただ単に忘れ去るというわけにはいきません。それは感情を抑圧することになるからです。許しというのは複雑なプロセスであり、次の経過をたどります。1. 否認、2. 非難、3. 自己憐憫、4. 憤り、5. 全体のパターンに気づくこと、すなわち自分に欠点があると感じているせいで同様の失敗を繰り返してしまうパターンに気づくこと、6. そのパターンから抜け出すこと、7. 許し、の7段階です。これらのフィーリングをすべて解放することによって

のみ、恥を完全に癒せるのです。

アパシーの次に癒すのは悲しみです。悲しみは、副腎、膵臓、そしてソーラー・プレクサスに保存されています。ヒーリングがこの段階に達すると、被害者の状態から抜け出します。心ゆくまで悲しみを感じ取り、涙を流すことで、悲しみは容易に解放することができます。落とし穴は自己憐憫です。自己憐憫とは単なる感情ではなく、状態でもあるため、はまり込んでしまうことがあるのです。それを回避するためには、過去と未来の原因を理解する必要があります。自己憐憫の過去の原因は子供時代にあります。幼い子供は自分で欲求を満たせないため、他者からかわいそうだと思ってもらうことで欲するものを手に入れます。しかし、そのような状態であるかぎり、感情が成長するはずはなく、いつまでも被害者でいることとなります。

自己憐憫の本当の原因は未来にあります。そして、他者を心理的に操作し、罰し、何かを回避するために使われます。自分をかわいそうだと思わせることで、他者を巧みに操ります。身近な人たちの自尊心を踏みにじることで、その人たちを罰します。自己憐憫に陥っている人に頼み事をしようとは思えないため、責任を回避するためにも使われます。けれどもそのような操作を可能にするためには、過去の問題にしがみついていなければなりません。本当の理由を認めてしまうと、操作がうまくいかなくなるからです。たとえば、自分自身をかわいそうだと感じているときに、誰かに「どうしたの?」と尋ねられたとします。もし「私はあなたを心理操作しているのです」と答えたとしても、彼らは納得しないでしょう。そこで、いろいろと問題を述べたてて、かわいそうだと思わせることによって、自分の思いどおりに彼らを操るのです。問題は、そのような心理操作を続けるためには、つねに問題を抱えていなければならないということです。それでは成功を手にすることはできません。成功してしまうと、かわいそうだと思ってもらえなくなるからです。スピリチュアルな成長もありえません。スピリチュアルな能力を発達させるというのは、もらうことより与えることであり、自分のパワーを保有し、責任を負い、ポジティブに考えることだからです。自己憐憫はそれらすべてを打ち消してしまいます。自己憐憫から脱するためには、なぜそのような状態を続けているのか、そのせいで何を犠牲にしているのかに気づかなければならないのです。そして、インナーチャイルドの要求を満たすことも必要です。要求が満たされることでインナーチャイルドは自己憐憫を手放せるようになり、それによりあなたの成熟が可能となるのです。このワークをする際は、徹底的に嘆き悲しむことによって解放を手に入れます。悲しみのすべてが解放されるためには、何時間も涙を流すことになるかもしれません。

がん（悪性腫瘍）が癒されるのはこの段階です。がんは細胞の同調化によって成長しま

す。体内で発生した細胞は周囲のエネルギーフィールドと同調するからこそ、肝臓で生まれる細胞は、心臓細胞ではなく、肝細胞になるわけです。それゆえ、がん細胞が周囲の細胞より強力だと、周囲の細胞はがん細胞に同調してしまいます。しかしながら、悲しみが解放されることによって身体エネルギーが高まると、反対にがん細胞が周囲の細胞に同調するようになり、がんは消滅します。がんの癒しに先立って、無意識、アパシー、悲しみの順に感情のステージを上り、身体エネルギーを上昇させる必要があります。そうしてこの段階に至ると、がんが短時間で消え去ることもあります。それはまるで、思いっきり嘆き悲しむことによって、腫瘍そのものが涙となって流れ出ていくかのようです。

次に癒す層は恐れです。恐れは胸腺に保存されています。恐れは向き合うのが難しいフィーリングです。トラウマを耐えがたいものとして恐れ、直視しようとしなない人もいます。怒りに身を任せるならば、自制心を失ってすべてを破壊してしまうかもしれない、あるいは痛みを許してしまえば、自分が破壊されてしまうかもしれない、と恐れているのです。しかし、次の段階である怒りと痛みに進む前に、しっかりと時間をかけて恐れを感じ取ることはとても重要です。恐れが過ぎ去ると、怒りと痛みに抵抗なく向き合えるようになるからです。恐れというのはつねに愛を取り巻いています。私たちがもっとも恐れているのは、愛を失うこと、愛の対象を失うこと、そして愛に応えられないことです。愛が大きければ大きいほど、恐れはより大きくなります。愛のあるかぎり、恐れが存在している可能性がつねにあるのです。よって、私たちは愛のために恐れを振り払おうとすべきではなく、恐れを乗り越えて愛する方法を学ばなければなりません。これはつまり、恐れを歓迎しつつ、恐れの後にある愛に焦点を合わせるということです。愛の存在を認めるなら、恐れをありのまま受け入れられるはずで

す。私たちは自分が愛に値しないのではないかという不安を感じているせいで、恐れと一緒に恥を抱えていることがよくあります。恐れと恥の組み合わせは、免疫システムを破壊する最大の原因です。したがって、恥を癒すことによって、免疫不全疾患も癒されます。HIVウイルスは、宿主のDNAを使って新しいウイルスを生み出します。そのプロセスはがんの同調化に似ています。この同調化を覆すためには、恐れを癒すことによって身体エネルギーのレベルを一段階上げる必要があります。そもそもウイルスが免疫システムに損傷を与えるわけではないという点を理解しておくことも大切です。免疫システムを害しているのは恐れと恥なのです。ウイルスが宿主を乗っ取ることができるのは、免疫システムが低下しているときだけです。

恐れと恥が解放されると、次は怒りが浮上します。無視された怒りはいくつかの方法で隠蔽されます。そのひとつに罪悪感があります。罪悪感とは、じつは許されない怒りなの

です。たとえば誰かを失望させたときに、あなたは自分自身に腹を立てると同時に、もとはといえばあなたに何かを要求してきた相手に対しても怒りを覚えます。けれども被害を被ったのはあなたではなく彼らであるため、怒りを感じるのはふさわしくないように思え、怒りが罪悪感に転化されることになるわけです。自分自身に怒りを感じる許可を与えることによって、罪悪感は解放されます。

隠蔽された怒りのもっとも狡猾な表れ方は受難者です。打ちのめされ、誤解され、正当に評価されていないと感じている状態です。受難者を支えているのは決して愛ではありません。彼らは無言の高潔な怒りを根拠に、無言の高潔な復讐を願っています。耐えがたい重荷を負っていると感じているときは、他者に罪悪感を抱かせることによって、彼らを罰しようとしています。そうすることによって、怒りを認めるよりむしろ、未来で正当性を証明しようとしています。ようするに、人々が当然の報いを受けるのを待ち望んでいるのです。受難者は絶対にそれを認めないでしょう。それというのも、彼らは誤解されているのであって、間違っていないと信じているからです。もし重荷を抱えすぎているように感じたら、あるいは誤解されているとか、不当に評価されていると感じているのに気づいたら、誰を罰したいと思っているのかを自分に問いかけてみましょう。罰を与えたいのは決して自分自身ではないはずですが、それでも受難者は開口一番「自分自身だ」と答えるでしょう。彼らは他者にどのような影響が及んでいるのかには興味がなく、いつも自分自身への影響に目を向けているからです。本当に罰したいのは神かもしれません。自分の怒りを無視せずに、はっきりと認めることによって、それを歓迎できるようになり、解放できるのです。

激しい怒りは、パワーもしくは自尊心の著しい喪失からあなたを守ります。怒りを否定すると、それはエネルギーの低迷状態や冷笑的な態度として現れます。そうして鬱積した怒りはいくらどんなに表現したところで、失われたパワーまたは自尊心を取り返さないかぎり、完全に解放されることはありません。しかしながら、怒りを感じ取る機会を自分に与えるなら、怒りから得られる力を利用して、奪い取っている人たちからパワーを奪回することができるのです。この段階では、パワーをエネルギーの玉として思い描き、それを取り返すヴィジュアライゼーションを行うとよいでしょう。

怒りは甲状腺に保存されています。失われたパワーを取り返すと、甲状腺の機能低下によって引き起こされているエネルギーの低迷状態が解消されます。また、甲状腺は石灰化を担っているため、怒りを解放することで関節炎が癒されます。

次に癒すのは痛みです。痛みは下垂体に保存されています。これは涙を流すことで解放できる悲しみとは異なります。ときに感じることはできるものの、涙では届かない痛みがあります。魂に深い亀裂が生じているかのように感じられる痛みです。じつに、すべての

痛みは分離を意味し、分離を癒すためには痛みを受け入れるしかありません。痛みの種類は分離の性質によって決まります。身体的な痛みは、コントロールが断たれているために生じます。例外なく、けがをするのは制御不能に陥っているときです。感情的な痛みを感じるのは、愛の感覚や帰属感から隔絶されているときです。心理的な痛みが起こるのは、理解から切り離されているときです。自分の内側で分離が生じているにもかかわらず、その痛みを抑圧しようとするれば、分離はその存在を主張しようとして、さらなる痛みを生み出します。分離を癒さないかぎり、痛みを抱えつづけることになるのです。けれども痛みを受け入れ、分離に終止符を打つことによって、ハイアーセルフと再結合し、より高次の生命エネルギーを実現させることができます。ヒーリングがこの段階に達すると、認識力がより鮮明になり、記憶が回復します。そして、自分の信念や選択をはっきりと認識し、それらを解放できるようになるのです。

信念というのは、自分の身に起こった出来事に対して意味と重要性を与えることによって形成されます。信念の形成は、さまざまな体験を通じて感受性が育まれる幼少期に始まります。そうして人生の初期に得た心象は、その後の体験によって分析と証明がなされ、やがて信念として保存されます。しかし、自分に起こった出来事を思い起こし、それらの体験に新たな意味と重要性を見いだすことによって、信念は変化します。そのような変化は、アファメーション（自己肯定の言葉を自分に言い聞かせること）では不十分です。潜在意識は言葉に対してさほど注意を向けないからです。信念を変化させるためには、感覚による裏づけが欠かせないのです。

激しい感情をとまなう体験をしたときに行った選択は、その後の人生を左右します。過去の選択の多くはリミットをかける性質があり、たとえば恵まれない生活を体験し、少ない物資で済ませることを選択した人は、その後も不足した生活に甘んじるようになるでしょう。愛さないことを選択している人は、いつしか人間関係を構築できなくなり、罰することを選択している人は、やがて成功を生み出せなくなるはずですが、しかしながら、過去に自分が行った選択とそのときの雰囲気や思い起こし、その場で感じた強烈さと同様の強烈さをもって新たな選択をするならば、新しい選択は必ずや古い選択に取って代わるのです。

下垂体は神経回路の修復を担っているため、下垂体を癒すことによって、麻痺している部分の動きが回復します。そのためには、麻痺状態を引き起こしている痛みを受け入れることが求められます。ヒーリングがこの段階に達すると、損傷部分の完全な再生も可能となります。身体の再生が起こるときは、クンダリーニーの上昇によって燃えるような熱さを体感することがあります。

下垂体が癒えると、おのずと松果体が回復しはじめます。この段階では、自分の現実をどのように創造しているのかを完全に自覚できるようになるため、二度と被害者の状態に陥ることはありません。ここから先は、絶え間なく夢の顕現化に取り組んでいきます。そして、どのような問題が持ちあがろうとも、意識を変化させることによって、それらの問題をどのように変化させればよいのかをつねに知ることができるでしょう。霊能力が目覚めるのもこの段階です。

内分泌腺の次は、脊椎のヒーリングに着手します。脊椎はすべての臓器に神経を供給しているため、各臓器に対応する椎骨（脊椎を構成する個々の骨）の石灰化を解消し、神経伝達を回復させないかぎり、臓器が完全に癒されない場合があります。また、脊椎は意志と深い関係があります。そのため、意志を曲げたりパワーを失ったりすると、そのたびに脊椎はゆがんでしまいます。脊椎が癒されるのにつれて、他者が仕掛けてくる巧妙な心理操作やコントロールの武器を認識し、打ち破れるようになっていきます。

コントロールの武器は主に8つあります。1つめはもっとも露骨な武器といえる暴力です。いじめ、レイプ、実際あるいは想像上の犯罪行為を罰するための監禁などがこれに当たります。2つめは恐怖です。非難、苦痛、孤独感、神への恐れなどによってコントロールを行います。3つめは罪悪感です。ふさわしい行動の基準をでっち上げることによって、いとも簡単に心理操作を行うことができます。4つめは虚偽です。嘘をつく、もしくは情報を差し控えることを意味します。必要とされる正しい情報が提供されず、自分にとって最善の決定をできなくさせられます。典型的な例として、不貞を働きながら、それを隠すことでパートナーに去られるのを阻止するというのが挙げられます。言い換えれば、心からの親密な関係を阻んでいます。5つめは義務感です。罪悪感と同様、ふさわしいとされる行動がでっち上げられ、それを尊重しなければならないと思込まれます。6つめは利他主義です。他者のために自分を犠牲にするよう教えられます。そのような教えは、他者を自然に気づかう気持ちや慈しみをねじ曲げるために作り上げられています。7つめはイメージ操作です。あるイメージが仕立て上げられ、それに従って行動しない人は何かしらの欠点があるかのように思われます。たとえば、「もし君が本当に男ならできるはずだ」といった言葉が使われます。8つめは承認です。誰かに不賛成を唱えられると、やりたいことをあきらめてしまうことがあります。これらの8つの武器をはっきりと認識し、そのコントロールを打ち破れるようになると、他者にパワーを奪われることは二度とありません。

クラニアル（頭蓋）・コース

脊柱のブロックが完全に取除かれると、クンダリニーが頭部へ上昇できるようになります。クラニアル・コースでは、問題の根本的原因を解消していきます。感情と記憶を越えて、より深い原始の無意識的なプログラミングへと進みます。まずは側頭骨から始めます。側頭骨は小脳テント（大脳と小脳の中の硬膜）に接続し、小脳テントは神経系のもっとも原始的な部分とつながっています。つまり、この付近は生存本能の根底に影響を及ぼしているのです。ここで、私たちは知覚を覆い隠しているヴェールをはぎ取っていきます。ここでいうヴェールとは、生存のために脳内で機能するテンプレートであり、知覚力を曇らせています。これらのテンプレートは、神経ペプチドを受け取り、感覚器が認識した情報を登録するために構築されます。そして、いかなる情報もこれにそぐわなければ認識されません。すなわち、これらのテンプレートはあらゆる体験をフィルターにかけることで、限定された意識の範囲内に私たちを封じ込めているのです。

1つめのテンプレートは、遺伝子とホルモンのヴェールと呼ぶことができます。遺伝子とホルモンは、生殖し、新しい宿主を見つけるという独自の課題を持っています。それがなされたら、宿主としての私たちが死んでしまってもかまわないのです。このテンプレートによって、女性は子供を欲しがるようになり、妊娠し、出産します。人生経験を広げようとした矢先に妊娠するということが起こりうるため、仕事などのキャリアをあきらめなければならないということにもなりえます。他方、男性はできるだけ多くの種をまきつきたいと欲し、そのせいで親密な関係を築きたいと願っているながら、壊してしまうことにもなりかねません。また、生殖のチャンスを得るためには最適者でなければならないため、誰もがトップの座につこうとして、男性間で競争が生じることにもなります。

2つめは社会のヴェールです。このテンプレートによって、私たちは社会への適合を優先し、個人を軽んじます。それぞれのヴェールは先行するヴェールの上に成り立っており、社会のヴェールは遺伝子のヴェールの上に構築されます。そして遺伝子のヴェールとは、強いリーダーを必要とさせるヴェールであるともいえます。それにより、私たちは有力者を信頼すべきと思われ、自分自身を信頼しなくなります。社会はそれ自体の存在を維持しようとする機能があり、全体のニーズのために個人のニーズが無視されてしまうという状況がしばしば起こりますが、全体のニーズというのは、となく有力者の要望であるくらいがあります。また、社会は私たちをカオスから守ってくれるものであったはずですが、カオスが大自然の脅威であった時代には社会に守られる利点があったものの、現代においては創造性と魔術を可能にするために、ある程度のカオスが必要とされます。個

人のニーズ、自己信頼、そしてカオスを奪われている私たちは、じつにさまざまナリミットをかけられているのです。

3つめはエゴのヴェールです。エゴは土台に競争心をはらんでいるため、すべてを優位性で測定しようとしみます。そのせいで、私たちは優劣を競うゲームに熱中し、誇大化あるいは矮小化の錯覚に陥り、自分の本当のパワーを見失うこととなります。

4つめはパワーのヴェールです。競争に基づく排他主義的な社会では、レゾナンス（共振または共鳴。ヴァイブレーションの近い振動体が影響し合うことによって強い相互作用が起こること）ではなくて、インパクトによって能力を測ろうとしみます。奇跡を起こすことのできる傷つきやすい心の持ち主はパワフルな人とは評価されず、他者を突き動かす力の持ち主がパワフルな人だとみなされます。ここでレゾナンスを理解するために、今この瞬間にハイアーセルフと女神がもたらしてくれる愛に包み込まれている自分に思いを向けてみましょう。愛をどれくらい受け取れるのかは、今この瞬間のあなたのレゾナンスにかかっています。もっと愛するように女神を強いることはできません。なぜなら、女神ははじめから惜しみなく完全にあなたを愛しているからです。レゾナンスを変化させることによって、あなたはより大きな愛を受け取れるようになり、現実を全面的に変化させることも可能なのです。これが本当のパワーです。

5つめは不幸せのヴェールです。不幸せは生存本能の働きのひとつに数えられます。幸せなとき、私たちは危険を警戒しなくなるからです。ひとりで幸せなひとときを過ごしていたとしましょう。そこへ、あなたに頼み事をしたい人がやってきたら、あなたは一瞬にして悲しそうな顔をするのではないのでしょうか。不幸せを演じていれば、頼み事を押しつけられにくいというわけです。とはいえ、幸せなまま断ることもできるのです。

6つめは過去のヴェールです。私たちは本能的に過去の経験を参考にして、起こりうる危険に対応しようとしみます。そうすることによって、原因は過去にあると思込み、原因と結果の世界に閉じ込められることとなります。けれども根本的な変化を起こすためには、過去の原因ではなく、未来の原因に目を向けなければなりません。いつの瞬間も複数の起こりうる未来が出現しようとしており、もっとも関心を得た未来が実際に出現します。過去に働きかけることによって変化を生み出そうとしても、限定された効果しか得られません。未来をふるいにかけて、培うことによって、根本的かつ永続的な変化を生み出せるのです。

7つめは依存症のヴェールです。あらゆる依存症の根底には、過去への依存あるいは自己特別視への執着が潜んでいます。依存症のヴェールは、エゴのヴェールと過去のヴェールが厚みを増すにつれて形成されていきます。

これらのヴェールは生存本能であるがゆえ、解放するためには、理性的な方法では不可能であり、しかるべきポイントホールディングを施すことが求められます。この段階において、ヒーリングを本能的なレベルまで行き届かせるためのトランスミッションが与えられます。

クラニアル・コースで次に働きかけるのは、トリプルアクシスと呼ばれるポイントです。このポイントを押さえることによって、蝶形骨の翼状突起、下顎骨の筋突起、そして頬骨弓の3か所に作用させます。それにより、翼突筋、咬筋、側頭筋が解放され、下垂体、松果体、そして甲状腺に反射作用的な効果もたらされます。そして、もっとも根深い痛みが解放されていくとともに、ハイアーセルフとの分離が癒されていきます。頭蓋骨が正常な形状に戻ると、頭蓋は増幅器となり、思考のパワーを1万倍に増幅して放射できるようになります。この段階ではさらに、ほとんどの人にダメージがみられる非常に繊細な蝶形骨の翼突鉤が再生され、霊的波動を送受信するためのアンテナとして機能できるようになります。こうして、霊能力が回復し、ハイアーセルフとのつながりが修復されるのです。

サードアイ・コース

サードアイ・コースでは、透視能力（千里眼）とマニフェステーション能力（顕現力）を目覚めさせるために、アステリオン（星状点とも。ラムダ状縫合、頭頂乳突縫合および後頭乳突縫合の合点）と眼窩上孔のポイントに働きかけます。ここに至るまでに解放したさまざまな感情パターンの根底にある根本的な不足感、すなわち愛、コントロール、安心感の3つが不足しているという感覚にアクセスし、それらを解放していきます。また、願望の顕現化を妨害しているすべての制約的な信念も解放します。そこでまずは、信念のひとつひとつに取りかかるのに先立って、ある真実と直接的に結びつきます。その真実とは、すべての現実的思考によって顕現されるものであり、したがって私たちは何であれ顕現できるということです。あらゆる信念は、程度の差こそあれ、マニフェステーション能力にリミットをかけています。そのため、制約的な信念のすべてが効果的に解放されるように、信念を超越した真実に気づくためのエンパワーメントが与えられます。さらに、後頭部に位置するサイキックゲートを浄化することによって、社会のヴェールを完全に拭き去り、他者から降りかかってくる影響を退けられるようになります。

サードアイが目覚める過程で、私たちは破壊のパワーを見いだします。そして、シャドウを受容します。自分は善い行いしかできないと自負するのではなく、邪悪な行いもでき

るけれど、善い行いを選んでいるということを認めることが欠かせません。破壊の必要性を理解することも求められます。もし破壊がなければ、エネルギーフィールドは不要となった古い形態が散乱し、乱雑な状態となってしまいうでしょう。破壊のパワーを自分のために作用させることで、思念体や霊的パラサイトを打ち砕き、ネガティブな出来事の具現化を防ぐことができます。そのために、願望に意識を向けるときに浮かび上がってくるネガティブなフィーリングを連続的に解放していきま。引き続き感情のステージを上っていきますが、これまでとは少し異なります。たとえば、最初のうちは、願望を視覚化するときに疑いや絶望感を感じるかもしれません。けれどもそれらのフィーリングを歓迎し、解放することによって、それまでは捨て去れなかった悲しみや怒りを踏み越え、失敗を恐れる気持ちを克服し、勇気、希望、肯定的な期待、ワクワク感、確信、安らぎにたどり着くのです。そのような高次の感情に達すると、願望は必ずや顕現するでしょう。

マニフェステーションのプロセスを強化するためには、ハイアーセルフと力を合わせることを求められます。まずは願望を描写あるいは象徴化し、それをじっくりと見据えて記憶にとどめてください。次に、ユニヴァースの全エネルギーを自分の中に引き込むイメージを思い描きながら、深呼吸をゆっくりと4回行います。そして、ハイアーセルフに贈り物として捧げるために、頭上約60センチの所にこのエネルギーが上昇していくのを視覚化します。続けて、そこへ願望の描写または象徴が上昇していくのを思い描いてください。そのときは、ハイアーセルフに願望を見せることをしっかりと意図しています。どのような種類のものであれ浮かんで消えてゆくフィーリングに注意を向けて、それらを喜んで迎え入れましょう。穏やかな気持ちで願いはかなうという確たる自信を感じられるようになったら、このプロセスは終了です。願望はすぐに顕現するでしょう。

クラウンチャクラ・コース

クラウンチャクラ・コースは、神、女神、All-That-Is と私たちの関係を浄化します。それにより、私たちは無限性に通じ、真の意志および運命とつながり、ユニヴァースと親密な共創関係を確立します。ここでワークするポイントは、左右のプテリオン（前頭骨、側頭骨、頭頂骨および蝶形骨大翼が接合する縫合線）、ラムダ（ラムダ縫合と矢状縫合の交点。乳児の場合は小泉門にあたる部分）、ブレグマ（矢状縫合と冠状縫合の交点。乳児の場合は大泉門にあたる部分）、そしてステファニオン（冠状縫合の側頭窩上に位置する部分）です。この段階において、なぜ源から分離したのかを想起し、分離についての最初の想いを呼び

起こします。私たちは個人としての自分が誰なのかを知るために源から分離しました。しかし、自分自身を見いだした暁には、自然の成り行きとしてではなく、自らの選択によって、神を愛する状態に立ち返ることが約束されていたのです。

源から分離するための後押しとして、私たちは偽りの宗教をつくり出し、みずからパワーを失いました。そうしてあたかも神が私たちに背を向けているかのように見せかけることで、私たちが神に背を向けられるようにしました。それに続くのは苦痛に満ちた分離と忘却の旅でした。しかしながら、自分が誰かを知ることによって、私たちは源と合流し、分離への想いを呼び起こします。それにより、喜びと愛に満ちた旅が始まります。この旅に乗り出す際は、宗教をつくり出したのは神を見失うためであり、神を見いだすためではなかったということを理解するとともに、宗教的な条件づけのすべてを克服しなければなりません。悪徳が魂を滅ぼすという概念を仕立てることによって、魂の救済が人生の大義名分となり、宗教はどのような見解も正当化できるのです。

隣人よりも豊かになることを許さない利他主義によって、私たちはパワーを完全に発揮することができなくされます。罪の概念によって、恵みを享受するのに値しないと思わせられます。自分自身を肯定的に評価したり、喜びや豊かさを求めようとするのはごく自然なことであるというのに、自尊や性欲や所有欲は大罪であるという教えによって、そのような願いはとがめられます。恩恵を得るためにはそれに値しなければならないという考えや罪悪感を手放さなければなりません。恩恵を受けるのにふさわしいかどうかは関係なく、私たちは生まれながらに何なりと受け取る準備ができています。それなのに、いつしか自分が恩恵に値しないかのように思わされてしまいます。私たちの現実には、求めるから生み出されるのであって、資格があるから生み出されるものではありません。それに値する必要はなく、それを望んでいればよいのです。また、この段階において、共生的罪悪感（他者に対して哀れみや優越を感じることによって生じる罪悪感）と、心理的負債感も解放します。共生的罪悪感とは、他者より多くを持つべきではないという考えから生まれますが、じつのところは私たちが他者との親密さを求めることに起因します。心理的負債感とは、私たちがいつまでも過去の制約に縛りつづけます。せっかく優雅な成功を収めても、その恩を返さなければならないと感じていたら、過去の苦勞が無駄であったかのように思ってしまうでしょう。この種の罪悪感とは理性的に解放することはできないため、トランスミッションを通じてハイアーセルフに取り除いてもらう必要があります。

分離について抱いた最初の想いはカルマのパターンに一定の傾向を生じさせ、その傾向は人生から人生へと受け継がれていきます。たとえば、最初の想いが孤独であったなら、孤独感とは不断のテーマとなるでしょう。何度も繰り返されるパターンはカルマのウェブ(蜘蛛

蜘蛛の巣状の網)を構築し、根幹をなすウェブは自己の現れ方を決定づけます。これは感情的なレベルに保存されているわけではありませんが、破ることのできない習慣を生み出す素材となります。生涯を通じて読書にいそしんでいた人にとって、読書はもっともたやすい行為となるはずですが、もしその人がアスリートになろうとしても、そのための条件を満たしていません。それと同様に、禁欲主義者の人生を何度も繰り返した人は、ロマンチックな関係を顕現させたいと願っても、そのためのレゾナンスを持ち合わせていないのです。そのようなカルマのウェブを払拭するためにはある種のエネルギーが必要とされるため、ここで追加のトランスミッションが与えられます。同じような制約に縛られた人生を7回以上繰り返すと、非常に稠密なカルマのウェブであるサンスカーラ（サンカーラ）が形成されます。通常、これは変化させることができないものとされています。しかし、セクメトに関連のあるこのエネルギーは、サンスカーラも解放することができます。これはサードアイによって見いだされる破壊のエネルギーをさらに強化したエネルギーです。

私たちは創造主との結びつきを発見するにつれて、善悪の観念を解放します。善と悪はひとつの源から生じているのです。これを理解するために、ダークシャドウとライトシャドウを共に受容します。自分の中で無視したいネガティブな要素はいろいろとあるものですが、私たちはじつに多くのポジティブな要素を無視してもいます。けれども光と闇を受け入れることによって、その両方に共通する要素を見いだせるようになるでしょう。たとえば、自分が激しい憎しみを生み出せるということを知るとともに、激しい愛も生み出せるということが明らかになるかもしれません。そこに共通しているのは強烈さです。これは自分が生のままの創造力とどのように関係しているかを示しています。この生のパワーとつながると、あなたは神、女神、All-That-Is とコ・クリエーションを始めます。クリエーションから、よりパワフルなコ・クリエーションへ移行するのです。また、善悪の観念を手放すというのは、邪悪な行いをするにはなりません。なぜなら、私たちは運命とより深く接し、自分の美質に反応するようになるからです。じつに善悪の観念の解放とは、新たな技能を身につけ、スピリチュアルな事柄を探求し、これまでとは異なる行為選択を試み、変化し、成長し、意味を見つけ、その意味に重要性を見だし、人生の難題に立ち向かい、超越し、古い価値をより優れた価値に差し替えることなのです。

このコースでは、サイキックセンサーと呼ばれる無意識的なメカニズムも解放します。潜在意識は生存を容易にするために一貫性を要求します。そのため、心霊現象など、この一貫性を覆す現象はすべて否定されます。そのような現象に遭遇すると、潜在意識がパニックに陥るせいで、病気になることさえあるのです。霊能力を開花させるためには、サイキックセンサーを解除する必要があります。これはプテリオンに働きかけることによって

なされます。

このコースではさらに2つのトランスミッションが与えられます。ひとつは発音できない言葉のトランスミッションです。これは神の聖なる名前です。声で発せられる言葉ではありませんが、ヴァイブレーションとして感じることでできる創造のレゾナンスです。このヴァイブレーションを自分の内側で感じられるとき、あなたは創造主のパワーとつながっています。ふたつめは誓約のトランスミッションです。源から分離したとき、私たちは神とのコ・クリエーションを約束されていました。このトランスミッションによって、そのときの誓約が思い出され、神、女神、All-That-Is とのコ・クリエーションが可能になります。また、このコースで与えられるふたつのタリスマンは、魔術的なワークとヴィジュアリゼーションを吸収し、保存し、繰り返します。そのため視覚化を一度だけ行えば、あとは願いが顕現されるまでタリスマンがビジュアリゼーションを繰り返すため、マニフェステーションに必要とされるワークを軽減することができるのです。

マニフェステーションセンター・コース

マニフェステーションセンターとは、ソーラー・プレクサスの近くにある、願望を顕現させるのになくってはならない微細なチャクラです。この状態を検査するのは簡単です。おへその右側に、5センチ四方のアルミホイルを光沢面を外側にして貼り付け、1時間そのまましておきます。アルミホイルのふちはすべてセロテープでとめておきます。1時間後、もしアルミホイルに小さな穴が無数に開いているなら、エネルギーの漏れがあることが示されています。マニフェステーションセンターの損傷している人たちが貧困にあえぎ、その反対に健全に機能している人たちが豊かさを実現しているのは、決して偶然ではありません。このコースはマニフェステーションセンターを完全に癒すことを目的に考案されています。

マニフェステーションセンターを癒すための重要な前提条件があります。その条件とは、取るよりも、与えることに意欲的でなければならないということです。取ると与えるの間には大きな隔たりがあり、まるっきり異なるレゾナンスをもつ互いに相容れないふたつの心理傾向が見られます。取る人は、自分は他者より恵まれていないため、与えることはできないと信じています。彼らは与えることを避け、もっと多くを要求するための言い訳として自己憐憫を使います。そして、自己憐憫を正当化するために、苦難の連続をつくり出すこととなります。そのような心構えでは、豊かさを生み出すのは不可能です。それとは

対照的に、与える人は信頼感を持って生きています。だからこそ彼らは与え、より多くを生み出します。それにより、創造主と密接に調和します。与えるというのは創造主の特性だからです。豊かさを生み出すために求められているのは、後者の心理傾向であるのは明らかです。これはすなわち、言い訳をするのではなく、自己憐憫に浸るのでもなく、他者にとって価値あるものを与えられるように努力するということです。とはいえ、必ずしも物質的に与えるという意味ではありません。最良の寄与とは自分自身を与えることです。自分の強さを与えるとき、あなたは拡張します。与える人になろうと努力することによって、たちどころにレゾナンスが変化して、創造力が発動するのです。

このコースはコ・クリエーションのパワーを伝導するためのトランスミッションから始まります。ふたつの存在が共同で創造するとき、結果として生じるエネルギーは各個のパワーの合計よりも強大なものとなります。よって、私たちが神、女神、All-That-Is と共にエネルギーを共創するとき、このトランスミッションによって結果はさらに偉大なものとなり、とどまることなく超越していくエネルギーが生み出されるのです。

私たちのパワーが封じ込められている原因のひとつに、古代になされた無力化の記憶があります。はるか昔、人類はより強大なパワーを持つ種族に奴隷化されていました。私たちは束縛をふりほどくパワーを遮断され、低次の存在として抑え込まれていました。彼らのほうが力をもっていたため、私たちは呪縛を解くことができませんでした。しかしながら、支配と管理の世界に囚われている存在は、コ・クリエーションのパワーに通じていません。それゆえ、コ・クリエーションのパワーとはまさに、私たちがみずから束縛から解放し、すべてのパワーを回復するために手に入れるべきパワーなのです。このトランスミッションとワークすることによって、ついに私たちはパワーを遮断している障壁を取り除けるようになります。それにより、意識が驚異的に拡張し、すべての制約を手放せるようになり、奇跡に開かれた状態となるのです。

制約を手放す過程において私たちは混乱状態に陥ります。あらゆる形態とは制約だからです。したがって、カオスだけを具現化するのではなく、ポジティブな望みを顕現させるためには、自分の真の意志と同調することが重要です。魔術伝承は、もうひとりの慈悲深い自分が存在する完璧な世界を描写しています。その世界において、私たちの分身は、神聖な計画に従い、すべてのパワーを完全に発達させた状態で、創造主と親密な関係を分かち合いつつ、愛と喜びと豊かさのある生を送っています。この慈悲深い分身と調和することによって、私たちは神聖な計画に向かって前進し、真の意志を思い出すのです。ここで、この分身とつながるためのタリスマンが与えられます。また、身体を再構成する方法を身体そのものに思い出させるために、先に与えられた神聖なエッセンスのトランスミッショ

ンよりもさらに高次のトランスミッションが与えられます。タリスマンと毎日ワークすることによって神聖な計画に近づいていきます。それにより、人生がもっとポジティブになり、霊性が途切れることなく拡張していきます。

このコースで与えられるもうひとつのタリスマンはヴリルを発達させます。ヴリルとは完璧な世界からやってくる神聖なエネルギーであり、すべてのネガティブなエネルギーから私たちを守ってくれます。ひとたびヴリルがアクティベートされると、いかなる魔力もあなたを傷つけることはできません。完全な充足へと向かうあなたの成長が邪魔されないことを保証してくれるのです。

トランスミッション

基本コースで最初に与えられるトランスミッションによって、参加者はエグレゴレと結びつき、進化と変容のパワフルな流れに乗ります。それから、クンダリニーを上昇させるためのドラゴン・ファイヤーと神聖なブループリントのトランスミッションが与えられます。神聖なブループリントのトランスミッションは、身体が変化する過程において、すばやく完全な状態に移行することを約束します。それにより、クンダリニーが上昇する際の安全が確保され、いかなるダメージが及ぶ心配もありません。

次のトランスミッションは遺伝子の記憶に影響し、DNAの変化と進化を可能にします。これは遺伝性の病気や機能不全の癒しを促進し、家系に受け継がれている感情的あるいは精神的なパターンおよび習癖を取り除きます。基本コースのトランスミッションは以上です。

クラニアル・コースでは、知覚を覆い隠している7つのヴェールを払拭することに狙いを定めた遺伝子のトランスミッションを加えます。

サードアイ・コースのトランスミッションは、信念を解消し、どのようなものであろうと生み出すことができるという真実に導くためのエンパワーメントとして与えられます。

クラウンチャクラ・コースで最初に与えられるのは、共生的罪悪感と心理的負債感を解放するためのトランスミッションです。その次は、カルマのウェブを除去する破壊エネルギーのトランスミッションです。これは終結のエネルギーであり、セクメトまたはオメガとして知られています。それから、マニフェステーションを促進するために、さらに2つのトランスミッションが与えられます。ひとつめは発音できない言葉のトランスミッションで、これにより神性なパワーと結びつきます。ふたつめは誓約のトランスミッションで、

神、女神、All-That-Is とのコ・クリエーションが可能であることを思い出させてくれます。

マニフェステーションセンター・コースで与えられるトランスミッションは、神、女神、All-That-Is と共創するコ・クリエーションのエネルギーです。このエネルギーは既知のいかなるエネルギーよりも速やかに、抑圧のエネルギーやカルマを解消し、進化のペースを速めます。このコースではさらに、慈悲深い分身のトランスミッションが与えられます。これにより、あなたは神聖な計画ととめどなく調和を深めていくため、人生がどんどんポジティブになっていきます。

以上に続いて、奇跡に開かれるトランスミッション、高次のガイダンスのトランスミッション、マニフェステーションのトランスミッション、そして預言能力とつながるためのトランスミッションがあります。これらは次第に高まっていくヴァイブレーションであり、先立って与えられたトランスミッションによってカルマを浄化し、ヴァイブレーションを上昇させることによって、段階的に獲得できるようになります。奇跡に開かれるトランスミッションは、その名のとおり、さまざまな奇跡が起こりうる状態を生み出します。高次のガイダンスのトランスミッションは、ハイアーセルフに通じるクリアなチャネルを開通させます。マニフェステーションのトランスミッションは、あなたの手の内に物理的なマニフェステーションが起こるように、次元の扉を開きます。これが伝導されると、参加者はヒーリング中に、クリスタル、植物の根、香油など、霊界からの贈り物が手の内に顕現するのを体験するようになります。そのような贈り物を手にすることで、霊界とコンタクトしているという刺激的な感覚が生み出されることでしょう。預言能力のトランスミッションは、未来を見ることだけでなく、未来を変化させることも可能にします。これら高次のトランスミッションはコース終了後に与えられます。

食事

ヒーリングプログラムの経過中は身体に大きな変化が起こるため、それを支えるために十分な栄養を摂取することが重要です。骨の再構成には多量のカルシウムが必要とされます。内分泌腺を再生するためには亜鉛が不可欠です。身体が必要とするすべてのミネラルを確実に摂取するためには、種々のコロイド状ミネラルを摂るのがもっともよい方法です。なお、土壌中の石油化学系肥料は植物がミネラルを吸収するのを妨げてしまうため、オーガニック食品を選ぶようにしましょう。また、酵素をたっぷりと摂取することも重要です。酵素は体内で起こるあらゆる変化の過程に必要とされる触媒として機能します。

適応分泌の法則は、身体が一定量の酵素しか分泌できないことを示します。すなわち、身体は消化酵素の分泌が多く必要とされるときは、ヒーリングなどそのほかの身体的変化のプロセスに必要とされる代謝酵素を少量しか分泌できなくなるのです。ローフード（高温加熱処理されていない食物）には消化を助ける酵素が含まれています。酵素は加熱調理によって破壊されてしまうため、加熱された食品の割合が高い食事は、身体に消化酵素を分泌する必要性を増大させることとなります。そのため、ヒーリングプログラムの期間中はローフードの食事が求められます。身体が大きな変化の過程をたどるときは、十分な酵素の摂取がいっそう重要となるため、オーガニックのローフードに加えて、コロイド状のミネラルと自然由来の酵素サプリメントを摂取することが推奨されます。

身体に備わる自浄作用を促すために、コーヒー、アルコール、精製食品や加工食品などの有害な食品を回避することも肝心です。化学添加物および遺伝子組み替え食品も避けなければなりません。また、タンパク質の供給源であるナッツや種子は、食べる前に、24時間ほど水に浸して、酵素抑制物質を分解することが必要です。乾燥している状態の種実類には、休眠状態を維持するための酵素抑制物質が含まれているからです。発芽するまで水に浸すことによって、酵素抑制物質が分解され、酵素が活性化するのです。ミツバチ花粉、栄養酵母、ウィートグラス（小麦若葉）、藍藻（スピルリナ等）などの自然由来サプリメントも助けとなります。他方、合成ビタミンはヒーリングクライシスを抑制し、変容を妨害するため、避けなければなりません。たとえば、風邪を抑制しようとして大量のビタミンCサプリメントを摂取すると、薬物を摂取したときと同様に、目に粘液の輪が形成されます。すべてのビタミン剤には合成物が含まれているからです。自然由来のビタミンC 500mgの錠剤があるとすれば、ゴルフボールほどの大きさになるはずですが、ビタミンCの活性化を促す自然成分は47種類もありますが、単体の合成アスコルビン酸（ビタミンCサプリメント）にはそれらの成分がまったく含まれていません。大原則は、実験室を盲信するのではなく、自然を信頼するということです。

ヒーリングクライシス（好転反応）

進化というのは、かならずしもゆるやかな段階を追って起こるのではなく、多くの場合、危機に直面したときに起こる突然の変化が重なることで成り立っています。著しい変化を体験しているときは、身体とマインドと人格のすべてが再構成されているため、一種の危機的状況が起こりうるのです。身体面においては、自浄作用によって毒素があらゆる開口

部から出ていくため、鼻水、咳、吐き気、下痢などの症状が現れることがあります。短時間の発熱もよくある症状のひとつです。それらは癒しのプロセスの一環であり、抑圧しないことが大切です。じつにヒーリングクライシスを起こしているそのような症状のおかげで、ヒーリングクライシスのプロセスを速やかに乗り越えられるのです。前述したピュアな食品はヴァイブレーションを上昇させるため、このプロセスを後押ししてくれます。また、ヒーリングクライシス中は、キネシオロジーの筋肉反射テストが正しく機能しません。というのは、筋肉反射テストは個人のバランスに対して機能するものだからです。ようするに、あなたのヴァイブレーションを高めるものはすべて、これまで維持してきたバランスを損なうものであるため、テストをすると筋肉に力が入りません。ところが、ヴァイブレーションを低下させるものはすべて、これまでのバランスに引き戻すものであるため、テストをすると筋肉に力が入ります。よくある間違いとして、バランスを欠いたと感じてキネシオロジストに会いにいき、筋肉反射テストで自然食品に対する反応を調べると弱い結果が出るため、自然食品にアレルギーをもっているとみなされてしまいます。反対に、ヴァイブレーションを低下させる合成サプリメントをテストすると強い反応が出るため、それらのすべてを摂取するようにアドバイスされます。テストの結果に従うならば、ヴァイブレーションが以前の水準に引き戻されて気分はよくなるでしょうが、突破口が開かれることはないのです。

過去に抑圧した感情が表面に再浮上することによって、感情面にもヒーリングクライシスが起きます。その際は、感情を歓迎することが重要です。そうすることによって感情はすぐに過ぎ去るでしょう。けれども感情に抵抗を感じる人もいます。エゴは大きな変化に抵抗するのがつねだからです。それを阻止するためには、エゴの言語を認識できるようになる必要があります。エゴは、非難し、否定し、正当化します。ですから、非難、否定、正当化しているなら、あなたはエゴに囚われているということです。エゴの発展がどのステージで止まっているのかを知ることも役に立ちます。幼児期のエゴは、世界を危険な場所とみなし、自分の要求が十分に満たされるかどうかを心配します。思春期のエゴは、自分が十分に優れているかどうかを気にします。成人期のエゴは、自分の成長または発展が十分な速さで達成されているかどうかを案じます。そして、完全に成熟したエゴは、自分が充分であることを知っています。私たちがヒーリングに着手すると、エゴはこれらのステージを経て成熟していきます。このプロセスは、エゴにはどのような働きがあるのかを理解することによって始まります。それから瞑想の中で、エゴの癒しと成熟をハイアーセルフに託すのです。エゴの状態を見きわめるために、自分が他者よりも優れていると感じるのは何か、自分は何を非難し、否定し、正当化しているのか、そして自分は世界と

どのように関係しているのかに目を向けましょう。エゴが成熟すると、あなたは変化に抵抗しなくなり、ヒーリングクライシスはスムーズかつ速やかに過ぎ去っていきます。

シャーマンのピーター・アジズが指導するアルティメットヒーリングおよびボディエレクトロニクス・アドバンスド・ポイントホールディング・コースについての詳細は、www.azizshamanism.com をご覧ください。また、このハンドブックの多くの内容を含む [YouTube ビデオインタビュー](#)（英語）もご興味のある方はあわせてご覧ください。

そのほかのソーシャルメディアには以下からアクセスしてください。

[Aziz Shamanism ブログ](#)

[Aziz Shamanism Facebook](#)

[Aziz Shamanism YouTube チャンネル](#)

Copyright © 2005 AzizShamanism. All rights reserved.